

定信紀行

第三話

小峰城三郭四園のこと

寄稿 市文化財保護審議会委員

佐川 庄司

老中在任中の松平定信は、江戸詰めであったことから白河に帰藩することはなかったが、老中辞任翌年の寛政6年（1794）に7年ぶりに帰藩した。そして、小峰城三之丸にあった藩主の下屋敷を三之丸に移し、ここに「三郭四園」の作庭を始めている。

江戸築地の「浴恩園」と同時並行で白河での本拠となる下屋敷に作庭を始めたのである。以後、参勤交代で帰藩することになった定信自らが陣頭指揮し、約4年をかけて御殿の造営とともに「南園」「西園」「東園」を持つ池泉回遊式の下屋敷庭園を完成させている。その規模は約1万4千坪と推定され、旧宝酒造工場跡地（郭内）一帯に所在していた。三之丸下屋敷の四圃の庭園であったことから三郭四園と名付けられ、南園には和歌や漢詩が詠み込まれた32の名所があった。

三郭四園の作庭にあたっては、自然地形に沿った最小限の造成に心掛け、また三之丸にあった茶室を再利用するな

ど、みだりに藩の費用を費やさず節約に努めたとされる。

園内では、藩士の武芸訓練や詩歌の会、領民を招いた敬老会なども催されていた。

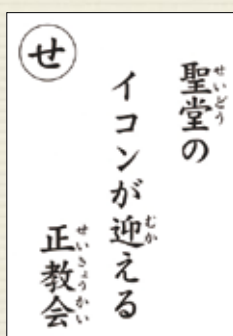
問 観光課 ☎ 5526



▲白河三郭四園北面之図（国立国会図書館蔵）

白河かるた
札でつながる今・昔

三枚目「白河ハリストス正教会」



野バラの教会としても親しまれている白河ハリストス正教会は、主にギリシャなど地中海周辺から東ヨーロッパを中心に信仰されている東方正教会の教会です。愛宕町にある聖堂（1915年建立）の屋根にはたまねぎ型のクポールが備えられており、東ローマ帝国時代に興ったビザンティン様式が見てとれます。

土佐出身で、坂本龍馬の従兄弟にあたる沢辺琢磨が初代司祭です。

東方正教会はイイスス・ハリストスや生神女マリアなどが描かれるアイコンを信仰の媒介とする点に特徴があり、聖堂には日本初のアイコン画家とされる山下りん

（1857～1939）によって描かれたアイコンが6点飾られています。

山下りんは幼少期から絵に関心を持ち、絵画を学ぶため1877年に工部美術学校に入学しますが、そこで出会った正教徒の同級生の影響で自身も改宗します。1880年、アイコンの技法を学ぶためサンクトペテルブルク（ロシア）の女子修道院に留学し、2年半にわたり修養しました。

帰国後は精力的にアイコンを描き続け、数多くの作品が日本各地の正教会の聖堂に飾られています。

問 まちづくり推進課
☎ 5533

お知らせ

ラウンジ

りぼらん

子育て情報

保健情報

くらしの情報館

定信紀行

白河かるた

休日当番医・無料相談ほか

市長の手控え帖